

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602330		
法人名	大成産業株式会社		
事業所名	グループホーム いちょうの杜合川		
所在地	福岡県久留米市合川町1392-1		
自己評価作成日	平成22年11月19日	評価結果確定日	平成23年1月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

設立時より取り組んでいる看取り介護では、職員に看護師を雇用し、提携医療機関との連携を密にして職員が利用者や家族の思いを汲み取り、出来る限り自然な形で暮らし最期を迎える事が出来るよう、レベルの高い介護と看護を目指して実践している。また、学習療法を導入しており、利用者の方々のコミュニケーションツールの一環として取り組み、利用者様お一人おひとりが毎日楽しく笑顔の絶えない生活が送れるよう常に努力し前向きにケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本人や家族の思いに寄り添いながら、最期までその人らしい暮らしを大切に支援が行えるよう、設立時より看取り介護に取り組んでいる。管理者、職員は、医療機関や人的資源等による連携体制の確立に努め、利用者の方々の一日一日を大切に支援しながら、様々な状況に対応できるよう自己研鑽を重ねている。
今年の避難訓練には近隣住民の参加もあり、利用者の見守りをして頂きながら、ホームの構造やグループホームとはどういうところなのかを知ってもらう場とし、参加者からは「経験できて良かった」との声を頂いている。地域の方々の理解を始め、利用者との親交が深まっているホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロア目につく所に理念を掲示しつつも意識して介護に取り組んでいる。なお、ミーティング時にも共有を図り実践につなげている。	毎月の職員会議で運営理念について話し合いをしている。理念の中に「地域・社会との絆を強める 貢献の人」とあり、現在、その理念の達成に向けホームとして強化しているところである。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定例行事は定着しつつあり、以外の行事等への参加も増やせるよう地域の行事には積極的に参加している。また、地域の方々に避難訓練等に参加してもらい、交流の場を増やして信頼関係を築いている。	地域のお祭り時には獅子舞が訪れ(お正月・敬老の日)、夏祭りでは子供神輿の休憩場として立ち寄ってもらい、ジュースやお菓子を提供している。年末は餅つき大会を計画しており、近所の方にも案内を出し一緒に行う予定である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修に参加し支援の方法を深めたり、セミナーで発表し、一般の方に認知症を理解してもらい、更には地域の協力が必要なことを伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、自治会長・民生委員・利用者ご家族・市職員・地域包括支援センター等参加して頂き、行事・現状の報告を行い、意見等頂いている。	定期的に開催しており、ホームからは、行事や事故についての報告を行って、地域の方々との意見交換を行っている。現在、老人会長や駐在員にも参加して頂くこと声をかけているところである。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状況報告や相談など連絡を行っている。事業所交流会に参加したり、久留米市のグループホーム部会の事務局として活動し、地域密着型サービス全体の質の向上に努めている。	グループホーム部会の事務局として活動している。部会開催は市役所で行う為、市職員とは常に連絡を取り合うことが出来ており、協力関係は良好である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、ホーム内で勉強会を行い身体拘束に対して理解を深め、職員一人ひとりが拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて研修等を行い、職員の理解を深めている。しかし今のところ、家族の希望で、転倒防止のために壁際にベッドを置き、乗り降りする部分にサイドレール2本を取り付けているケースと、夜間のみではあるが、皮膚の状態悪化を防ぐため「つなぎ」の服を着せている利用者がいる状況である。それぞれ口頭での同意をもらっている。	管理者と職員では、身体拘束についての認識が異なっている部分があるように見受けられる。家族が希望するからと安易に拘束を行うのではなく、自分達がやっているケアを再検討し、身体拘束をしないケアに取り組むことを期待したい。また、口頭ではなく書面による同意を得ておくことが求められる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり勉強会を開き、どのようなことが虐待に繋がるか、また、言葉遣いや態度、行動などを職員一人ひとり見つめ直しながら防止に努めている。		

福岡県 いちよの杜 合川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。また、資料等を閲覧出来るように設置している。	主に管理者が研修に行き、ホームで伝達講習会を開催し、職員間で共有するようしており、制度についての理解は出来ている。権利擁護の資料やパンフレットも常設しており、いつでも対応できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や説明書類を用いて説明を行い、相手の意見もよく聴き、理解・納得して頂いた上で同意を得ている。また、面会時や電話連絡時など随時相談できるようにしており、専門用語を控え分かりやすい説明や記録に努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運動会等を実施し、ご家族・職員間の距離を縮め何でも話せる関係作りに努めている。また、月に1回介護相談員が来訪され外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させている。	日頃より面会時などに声をかけ、意見や要望等を聞くようにしている。また、年1回(秋)家族会を開催しており、今年は16名の家族が参加され、意見交換・交流の場となっている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が日頃から何でも意見や思いを言えるような関係作りを行い、管理者は毎回ミーティングに参加し意見交換を行っている。また、2ヶ月に1回いちよの杜全体のリーダーミーティングを行い、提案等を報告・検討し反映させている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。当日参加できない職員は、事前に書類に話したい事等を記載できるようにしている。皆で改善策などを考え検討し、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会参加の要望等あれば参加出来るよう配慮し、勉強会を定期的開催し向上心を持って働けるような環境作りをしている。また、実績ややる気に応じて実践者や管理者研修への参加も促している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	就職を希望する動機付けを最も大切に、性別や年齢等を基準にせずやる気・思いを尊重している。また、日頃から何でも言い合えるような関係作りに努め、職員一人一人の能力・得意分野に見合った担当を設け、生き生きとして働けるよう配慮している。	20歳代から60歳代と幅広い年齢層で採用している。保育士の資格を持つ職員は、紙芝居やピアノ演奏をしたり、調理が得意な職員はケーキを利用者と一緒に作ったり、パソコンやデジカメなどを得意とした職員は、スライドショーやアルバム、新聞等を作成するなど、それぞれの得意分野を発揮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権・権利擁護に関しての勉強会を行っている。また、「家族や自分、大切にしている人に対してはほしくないことは利用者にはしない、自分の家族を入れたいと思うホーム」を目指して取り組んでいる。	法人内での職員の研修の他に、地域の住民を対象とした校区の人権研修があり、「認知症について」事務長が講師をするなど、積極的に啓発活動に取り組んでいる。	

福岡県 いちよの杜 合川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内やホーム内で定期的に勉強会を開き、各自が学びたい事などをテーマにすることもあ る。また、外部の研修にも参加出来るよう資料を誰でも見れる所に配置し、参加の機会を設けている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者交流会やグループホーム部会・研修会に積極的に参加し、交流する機会を増やし意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前から本人の身体・精神状況を把握し、入居後スムーズに生活が送れるように配慮し、互いに受容・傾聴・共感し合いながら信頼関係を築き、安心した生活が送れるよう支援する。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の都合を確認して時間を気にせず何でも話せるように対応している。また、話をしても迷いや不安疑問、聞きそびれたことなど生じたら何度でも聞く機会を設けたり、電話連絡を密に行ううけとめる努力をしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている支援を把握し、必要なサービスについて提案している。また当ホームだけでなく他の施設・ホームも見学してもらい、本人が一番合った所に入れるように対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩」として接する一面、家族のような関係が築けるように互いに距離感を保ちながら何でも言い合えるような関係を作り、また得意分野・やりがいを見出し本人らしい生活が送れるように支え合っている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	秋祭りや運動会など家族も参加できる行事を催し、利用者・職員と楽しみを共感し、共に支えていく関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか面会に来れない家族とは手紙のやりとりをしたり、馴染みの美容室に通うことで関係が途切れないよう支援している。	昔からの行きつけの美容室を利用したり、競馬が好きな人には競馬場に出かけたりと、馴染みや懐かしい場所に行けるよう支援している。	

福岡県 いちよの杜 合川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの方と楽しく外出や思いで作りをして頂く為に、外出時等の日程や車の座席等には配慮している。また、毎朝体操・レクの時間を設け皆様が顔を合わせて楽しく過ごせるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の同意の下、退去後病院や施設等にお見舞いに行ったりして関係性を大切にしている。また、退居したご家族から電話連絡があったり面会に訪れることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やその後担当職員を中心に一人ひとりの希望や意向を日常の何気ない言動や表情から思いを組み取るようにしている。また、定期的の担当者会議の中でゆっくりとお話を聞き、暮らし方の希望を把握できるように努めている。	1対1になる環境作りをし、思いを聞くようにしている。利用者によっては、担当者会議の場の方が思いを伝えやすい方もあり、個々にあった方法で意向の把握・確認をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、紹介先の事業所等から情報収集を行い、生活リズムを乱さないように配慮している。また、アセスメント時等に随時ご家族に相談し職員間で話し合いを行いよりよいケアと本人に応じた生活が送れるように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶の返答等で様子をみたり、1日2回バイタルのチェックを行い、心身の状態を把握し、異常があればいつも以上に観察を行い全職員に申し送りを行っている。また、職員間で密に情報の共有を行い一人ひとりの有する力が発揮できるようなチームケアに取り組んでいる。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及びご家族に意向を尋ね、それに沿って立案し生きがいをもち生活できる計画作りを努めている。また、状態変化時等にも要望・意向を組み取り、必要時には関係者に相談を行いよりよい計画を作成している。	職員1名に対し利用者を2、3名担当しており、計画作成者と一緒にケアプランを作成している。状態に応じて目標設定をし、見直し時期には担当者会議を開催し、プランに反映させている。また、モニタリングと評価は毎月実施している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録、連絡ノートを出勤時に必ず読み情報を共有し、毎日モニタリングを行い、気づき・状態変化時等は細かく記録を残し、言動・表情を観察し新たなケアに活かせるよう取り組んでいる。		

福岡県 いちよの杜 合川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変があっても24時間対応できる看護師を配置している。また、外泊時に希望があれば送迎も行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物希望があれば職員も付き添い支援している。また、消防士を招いて近所の方にも協力を依頼し避難訓練を行ったり、ボランティアを依頼して行事を行い、安全で楽しい生活ができるよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医の受診や提携医療機関の受診を看護師が付き添い支援している。また、外出が困難な方や体調不良な方には往診にて対応している。	本人や家族の意向を尊重した受診体制が構築されている。看取り体制も整えられており、医療との連携もとれている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が出勤しており、気づき・状態変化時は報告・観察をし、職員間で情報交換を行い必要時には処置や対応を行っている。また、医療連携先の訪問看護師と連絡を取るなど連携を図り、適切な対応が出来るよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を提出し、お見舞いに行った際には主治医、看護師から入院中の様子や現状の情報収集を行い、ご家族とも相談し、退院の見通しを立て、退院後も安心して生活できるよう支援している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へ緊急医療体制・看取り介護に関する指針の文書を説明し同意を得、本人又は家族より最期をどう迎えたいのかを確認し、話し合いを行いその内容を職員へ伝達している。また、看護師がリーダーシップをとり医師との連携を図り、緊急性や医療行為が必要な方へは医療機関を勧め、ホームで看取りを希望される方には、ホームで看取る意味、ケアを職員に教育し、家庭的な雰囲気最後まで大切に支援を行っている。	入居時に看取りについて説明を行っているが、再度時期を見計らって説明し、看取り介護・看護に対する同意をもらっている。看取り期になった場合は職員は常に綺麗で清潔にすることを心がけ、対応の仕方等共有し連携をとっている。家族もホームに泊まり込み一緒に看取りができるように支援している	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者に起こりうる急変時に対して日頃から看護師が伝達し、状態変化時にも注意ごとやケアに関して実技、又はノートを通して伝達している。また、定期的に勉強会も開いたり、ほとんどの職員は救命救急講習会に参加している。		

福岡県 いちよの杜 合川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、消防署立ち会いの下、地域住民の方々にも参加して頂き夜間を想定した避難訓練の指導を受けた。また、緊急告知ラジオを設置している。	年2回避難訓練を実施し、内1回は夜間想定での訓練を行っている。今年は初めて4名の地域住民の参加もあり、一緒に訓練を行うことができている。住民より「経験できて良かった」との声を頂くことが出来た。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握しその方の気持ちになっ言葉掛けや対応を行い、感謝の気持ちを忘れずに努めている。また、プライバシーの尊重の勉強会に参加したり、その人らしい生活ができるようにミーティング時などに話し合い向上に努めている。	言葉かけが悪いと感じた場合は、職員同士で注意しあっている。以前は親しみを優先した呼び方をしていたが、「さん」と呼び、利用者を尊重していこうと取り組んでいるところである。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを分かり合えるよう顔を見て言葉掛けを行ったり、希望を引き出せるようにその人に合った言葉掛けで働きかけ、最良の自己決定の支援に努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を尊重し、その人のペースに合わせて好きな時間を過ごせるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理容を利用し、いきつけの美容室がある方には送迎の支援を行っている。また、選択可能な方には衣類を選んでもらい、本人ができない所だけの支援を行っている。好む方にはマニキュアを塗ったり時には化粧を行うなどの支援を行っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に合わない物は別メニューを提供したり、希望時には希望に沿ったメニューを提供している。また、季節感のある食材を取り入れ、極力職員も一緒に食事をするようにしている。家事を好まれる方や一人ひとりの状態に合わせて準備や片付けのお手伝いをして頂いている。	玉ねぎの皮を剥いたり、米とぎや、テーブル拭きなど、一人ひとりのできる部分を生かした支援をおこなっている。また、希望でカップ麺を提供したり、外食やケーキ屋に行ったりするなど、本人の楽しみを大切にしながら支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴・現病歴・医師の指示、家族の意向をふまえ、体調や嗜好・嚥下・咀嚼状態を見て食事内容も工夫している。水分をあまり摂られない方には好みの飲み物を提供して補ったり、発熱時等にもこまめな水分補給に兼ね備えスポーツドリンク等で栄養を補っている。		

福岡県 いちよの杜 合川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のADLの状態に応じて対応し毎食前緑茶うがいをしている。うがいが困難な方などには不織布ガーゼを使用し口腔ケアに努めている。就寝前には入れ歯を除去し洗浄・消毒を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて随時、声掛け・案内を行っている。また、介助が困難な方も2人介助で対応しトイレで排泄の支援を行っている。また、ミーティングを行い日中だけでも布パンツで過ごせるようにし、自立にむけた支援も取り組んでいる。	日中の紙おむつ着用者はいない。ボクサーパンツにパットを当てている利用者が多い。職員は個々の排泄パターンを把握しており、声かけ誘導している。トイレには排泄表が貼ってあり、毎回記入するようになっており、記入漏れがないようにしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供、体操への参加を促している。また、無理のない程度の水分補給を行い、それでも困難な場合に薬を使用し調整している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずに体調・生活ベースに応じて出来る限り希望に沿った支援をしている。拒否のある方には馴染みの方と一緒に入ったり、職員を変更して対応している。ただし、勤務の都合上、夜間帯の入浴については安全面を考慮し行っていない。	午前から午後にかけて毎日入浴できる体制である。拒否のある方は、仲のいい方と一緒に入浴できるよう支援したり、本人希望の介護者にするなどに配慮している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも状態に応じて休息を設けている。その際お気に入りのBGMを流したりして、安心できるよう支援している。夕食後には団樂の時間を設け、眠たくなった方から居室へ案内し、寝具・室温の調整を行い、快適の眠れるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用には十分注意し、薬の変更時等看護師より全職員に申し送りを行っている。また、服薬時は声に出して職員間で日付・名前等確認を行い、確認可能な利用者には本人にも確認してもらい支援している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の得意分野に合わせて洗濯物干し・米ときぎ・野菜の栽培・貼り絵やカレンダー作り等役割を持って生活している。また、季節毎の花見や外出(温泉・苺狩り等)を積極的に行い気分転換の支援をしている。		

福岡県 いちよの杜 合川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1対1など少人数での外出でゆっくりとコミュニケーションも取れ、希望に沿った支援を行っている。また、外出時に家族も参加されたり、毎・葡萄狩り等毎回同じ所を利用することにより、地域の方々の協力も密になり、よりよい支援ができるよう努めている。	1対1の個別対応を心がけ、週1日か2日は外出できるよう計画している。本人や家族の意向を聞き、映画館や温泉、競馬場、鳥類センターなど普段行けないような場所でも出かけられるように支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もおられ、買い物の際は同行し本人に支払ってもらっている。管理の困難な方には支払い時に手渡し支払ってもらったりと希望に応じて代行している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけた手紙のやりとりができるよう支援している。また、お正月にはご家族などに年賀状を書いて楽しみのひとつとなっている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その月に合った季節感のあるカレンダーを作成したり廊下に貼り絵を貼ったり、花壇に咲いた花を飾ったりして季節感を味わってもらっている。また、日差しが強いとき等はカーテンの調整、また掃除機はテレビ鑑賞の妨げになる為、控えたりと居心地良く過ごせるよう工夫している。	リビングや食堂の南窓は日当たりが良く、明るく暖かい。壁には絵が得意な方や、書道が得意な方の作品が掲示されている。出入口口にセンサーが設置されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファには自由に座ることができ、楽しくお話ししたり好きな番組を見て過ごすことができる。また、一人になりたいときなどは自室で過ごして頂いたりもしている。外出時には気のあった方と座れるように工夫している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居相談時に馴染みのあるものをお持ち下さいと説明する。仏壇やテレビ、使い慣れた寝具を使用している方もおられ、また、家族の飼っている動物の写真を貼ったり家具の位置にも配慮し快適に過ごせるよう工夫している。	部屋のレイアウトは本人と家族で決めて頂いている。部屋には写真やぬいぐるみ、仏壇などが置かれており、本人にとって居心地のよい空間となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、廊下トイレには手摺りを設置し、歩行の妨げになる所には物を置かないよう環境整備している。また、トイレには張り紙、居室には名札を設置、個別の湯飲みや茶碗を使用し、それぞれが分かるよう、自立できるよう支援している。		